

令和5年度
教職課程
自己点検評価報告書

令和6年3月

北翔大学 教育文化学部 教育学科

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：教職課程教育を通して育まれるべき資質能力を示した学修成果（ラーニング・アウトカム）の具体的な提示がある。
- B：教職課程で学ぶ学生間、教職員間で周知され、共有されている。
- C：教職課程を担う教職員の資質能力を高める上での方策として、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の確立とその機能的有効性がある。
- D：教職課程のマネジメントを掌る全学的組織と学部（学科）・研究科の教職課程において連携のための有効的な方策がある。
- E：教職課程の質的向上に向けての取組を含む教員養成の状況についての情報公表をしている。

<教育文化学部 教育学科>

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

基準項目 1-1-①

教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D○	E○
-----------	----	----	---	----	----

【現状】

情報の公表（教職課程）として、本学ホームページにおいて9項目公表している。

「1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画 3. 教員の養成に係る組織及び教員の数 4. 各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目 5. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 6. 卒業者の教員免許状の取得の状況 7. 卒業者の教員への就職の状況 8. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組 9. 教職課程自己点検評価・報告書」

本項目は、「1. 2.」としており、本自己評価で求められている取組の観点に対応しているものとなっている。

【長所・特色】

特に、1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画においては、学科の教育研究上の目的「幼児・児童・生徒の視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身につけ、学校教育はもとより生涯学習社会での様々な場面で展開される文化・学習活動を支援・地域貢献することのできる人材の育成を目的とする。」に沿ったものとしてポリシー及び具体的な取組の方策を明示している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

少子化がすすむ中であって、子ども一人ひとりの能力を十分に発揮できるように育てるために、教員・保育者には幼児・児童・生徒の特性に対応して学習活動を支援していくための資質と能力が求められている。さらには、いじめや集団での小さな異変に気づき、適切に対処できる生徒指導や学級経営に関する実践的指導力はもちろん、人間関係が希薄になっている現代社会にあって、多様な学習活動を創り出していける高度な知識と技能だけでなく、発達障害や自閉症傾向など特別な支援を必要とする児童・生徒の増加などに対応できる専門職が求められている。教育学科では、特別支援教育に関わる科目をコース共通科目と位置付け、豊かな感性と柔軟な思考力をもち、幅広い教養と常識ある判断力・行動力のある教員・保育者に努めている。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表 2023 年度更新確認申請書、教育研究上の基礎的な情報)

2 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員養成の目標、教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組)

基準項目 1-1-②

育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D○	E
-----------	----	----	---	----	---

【現状】

前項①に示した「情報の公表（教職課程）」の項目である「1.2.8」については、教職センター運営委員が毎年度検討・精査を行い、学科の確認と承諾を経て、ホームページに掲載している。一連の確認・承諾は、「学科内で教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施すること」に直結している。また、年度ごとに行うシラバスの点検・改善時にも、他科目との関わりや教職課程教育として、目標・内容の扱いが適切であるかという視点を取り入れながら精査している。

【長所・特色】

毎年度行なわれる公表情報の精査(上記)は、教職センターにより掲載する文書にある「科目・学修内容」の適正さを確認するものである。更に、学科会議での検討を受け、学科長の最終決裁を受ける流れとなっている。この取組と決済の流れは、学科教員が学科のポリシー及び教職課程の持つ意味を毎年度確認することと直結することから、学科の教職課程教育の優れた質の担保に繋がっている。

学生に対しては、「教職課程教育にかかわる履修登録指導」を学期当初のオリエンテーション及び複数回にわたる個別面談(教育セミナー関係講義時間内及び講義時間外に実施)で行っている。この際に行っている「履修カルテの記入」及び「履修カルテを活用した学びの方向性の確認」は関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施する基盤として不可欠なものとなっている。更に、「履修カルテ」については、教職実践演習担当教員が内容を詳細に把握し、担当学生が興味・関心とともに高い意欲をもって調査する教職に関する研究課題の取組と発表に役立てている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

目的・目標の共有は、学科内で年度初めに確認を行うほか、情報の公表（教職課程）更新時にも全教員による承諾を得ることにより、強固なものとなっている。これらは、教職課程教育の計画的な実施状況を学科内で相互に確認し、改善が必要な場合にはそのための指標としている。

教職課程教育という視点では、「履修カルテ」を活用した科目指導(主に教職実践演習)を維持・継続し、教職に就くためのレディネスとしての意味が大きいものであることを学生の意識としてさらに強固なものとしたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(情報の公表 2023 年度更新確認申請書、教育研究上の基礎的な情報)
- 2 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員養成の目標、教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組)

基準項目 1-1-③

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D○	E○
-----------	----	---	---	----	----

【現状】

情報の公表（教職課程）として、本学ホームページにおいて公表している。

項目は、「1.2.8」としており、本自己評価で求められている取組の観点に対応しているものとなっている。

「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて示されている成果は、学生便覧中の「各種資格-教職課程」及びシラバス中の「授業の目的」に明示されている。

【長所・特色】

シラバス中の「授業の目的」に明示されている「到達目標」は、教職課程教育を担う科目としての厳格な評価基準であり、教員養成の包括的な目標である「豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身につけ、多様な学習活動をつくりだすことができる教員や、子どもの心身の健康課題の専門的知識をもち、さらに特別な支援を必要とする子どもに情熱をもって関わることのできる教員を養成する。」を完全に達成できるものとなっている。教育学科が目標とする教員像は、以下として、具体的に示している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学科が示している「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭（音楽）」「高等学校教諭（音楽）」「養護教諭」「特別支援学校教諭」育成の方針及び内容が、各年次の前後各学期に段階的に高まっていることを、各年次各学期の履修指導の中で各科目の目標や内容といった具体を示しながら指導していくことが必要である。確かな指導となっていることは、実効性を確認することによる検証が必要であり、履修カルテ指導及び面談等の中に、これらの視点を位置付けることが求められる。学科での共通理解を深めていくため教職課程教育担当職員の学生の高まりを意識した時機を考慮した計画的な働きかけが不可欠である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員養成の目標、教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組)
- 2 講義要領シラバス (教育学科)
- 3 学生便覧 (教育学科)

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

基準項目 1-2-①					
教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。					
取組観点との関係性	A	B○	C	D○	E
<p>【現状】 文部科学省の教職課程設置基準に沿った教員の配置となっており、適切である。</p> <p>【長所・特色】 本学科では、研究者教員と実務家教員という位置づけはないが、全ての教員が教育現場以外のもも含めた実務経験を通して培われた知識・スキル等を学びの場で生かしている。 異なる背景を持つ教師教育者が、本学科の職務内容にどのような時間配分をして取り組んでいるかといったことについての調査を行なっていないが、教育と研究に割く割合に有意差はないと考えられる。 本来的な業務の本質は、学生の学びが充実したものとなるように常に工夫改善する教職課程の推進と発展であり、学生の利益を追求することである。このことに割く割合が最も高いことは言うまでもない。</p> <p>【課題(質的向上の視点)と改善策】 研究者教員と実務家教員という意識をもつこと自体に高い重要性をもつことよりは、常に各教員間の情報交換を積極的に行い、学科会議等での学生の学びの様子との交流を重ねていくことに、今後も十分な時間をかけていくべきである。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉 1 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目)</p>					

基準項目 1-2-②

教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。

取組観点との関係性

A

B○

C

D○

E

【現状】

本学では、教職センターの業務に直接かかわる役割を担う教員の選定が求められており、各学科から複数名の教員及び事務職員が教職センター運営委員としてその業務に当たっている。

これら教職センター運営委員は、年間を通して計画的な業務推進を行っており、その役割分担についても最終的な本人の承諾を得ることを前提としながら適切な配置となるように指名し、配置している。

【長所・特色】

本学は、教職課程を持つ複数の学部・研究科の設置となっている。前述のように、教職センターを運営する委員の定期的な会議が設定されていることから、教員養成を行う際の学生の学び方についての率直な情報交換がなされている。

このことは、本学科で目指している教育の方針と実際の状況に、多面的な視野をもって深さを与えることに繋がっている。学生にとっても大変に優位に働くものである。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

本学科は、学科会議において、役割にしたがって定期の業務報告を行っている。これによって、教職課程の理解と学生の学びの状況を常時共有することが可能となっている。今後もこの体制を継続し、より確かなものとしていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員の養成に係る組織及び教員の数)

基準項目 1-2-③

教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、デジタル教科書を用いた教育指導に対応することも可能となっている。

取組観点との関係性

A

B○

C○

D

E

【現状】

本学は、現在の教育課題及び情勢、教育施策等を適時適切にとらえており、ICTに関しても国の大きな方針であり急激に進んだ「GIGAスクール構想」にも対応している。

タブレット端末の十分な整備、学校の教育環境と同等の学びができるように改善した教室を複数整備している。

また、ソフトに関しても、十分な調査の元に、教育実習及び就職後にも即座に対応できるものとしている。

【長所・特色】

最新の機器と教室環境が複数整っている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

各学科・研究科の各科目の中でICTのより積極的な活用を図る体制を強化していきたい。このためにも、各科目の内容を学科会議等の中で積極的に交流していくことが望まれる。

また、教員採用に係る自己推薦書にも記載項目として設定されていることを重視していく必要がある。より具体的な活用の方法を各科目の中でも内容として取り上げていきたいところである。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画)

基準項目 1-2-④

教職課程の質向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の取り組みを展開している。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E
			○		

【現状】

FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の取組を展開する視点で、全学を対象とした授業評価「授業改善アンケート」を毎年度各学期に行っている。また、FD支援オフィスが主となった「ICT相談会」がしばしば実施されている。また、「FD/SD研修会」も定期的実施されている。これらは、教育現場の急速なICT環境の変化に対応したものである。

【長所・特色】

開講教員（非常勤講師含む）を対象とした『授業の質の評価』を把握すべく、半期毎に『授業改善アンケート』を実施することは、受講生が回答した『授業の各種評価』を、教員が授業改善に即座に活かすことに繋がっている。

各種研修会及び相談会は、教員養成課程に対して「情報機器を授業で活用する」講義を行う指針の文部省通知に対応したものであり、最新の機器及びソフトウェア、各種機器にも対応できるものとなっている。

【課題（質的向上の視点）と改善策】

教育現場での先進的な指導事例の研究および具体的かつ実効性の高い指導の在り方についての研修を深めていくことが求められる。

本学地域にある小中学校との連携、北海道教育委員会・札幌市教育委員会との情報のやり取りをさらに活性化していく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ（学生生活（FD支援オフィス））

基準項目 1-2-⑤

教員養成の状況についての情報公表を行っている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○
-----------	----	----	---	---	----

【現状】

教育職員免許法施行規則第22条の6の定めに基づき、情報公表している。

1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画 3. 教員の養成に係る組織及び教員の数 4. 各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目 5. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 6. 卒業者の教員免許状の取得の状況 7. 卒業者の教員への就職の状況 8. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組 9. 教職課程自己点検評価報告書としており、本自己評価で求められている取組の観点に対応しているものとなっている。

【長所・特色】

毎年度の改善及び学部ごとの確実な確認・承諾の過程を明確に位置付けており、学生への周知についても、履修オリエンテーション及び各科目の中で行っている。以下に、例として、小学校教諭育成における本学科1年次前学期と4年次後学期の考え方を掲載する。

○1年次前学期

「教職概論（幼・小）」では、教師としての使命と責任について理解し、求められる資質能力について理解する。「教職原理（幼・小）」では、教育や教育学に関する基礎的基本的な概念や知識を理解するとともに、さらに、各教科の「概論」では、教科教育の目標や内容について子どもの立場から考え、教科学習の基礎的な理解を図る。また、学校種を問わず現代の教員に求められる学習や生活場面で活用するための情報処理技術の習熟や外国語への親近感を培う。その過程では、伝統的な教育内容から最新の指導技術への変容なども学習し、初等教育の教員としての常識と幅広い教養を身につけ、変化の時代に対応できる資質能力を高める。

○4年次後学期

「卒業研究」を完成させ、発表会での意見交流を通して教員としての学び合いや支え合い、共同して目標を達成できる資質を育成する。「教職実践演習（幼・小）」を通して、現場に対応できるよう、不足している知識・技能を補い、定着を図る。今後の教員として必要な資質能力の完成を高める。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

「幼稚園教諭」「小学校教諭」「中学校教諭（音楽）」「高等学校教諭（音楽）」「特別支援学級・学校教諭」「養護教諭」の学修について、在学年次学期毎に具体的に示されている指針を余すことなく学生に伝える現在の学科ポリシーを維持発展させていくことが大切である。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表)

2 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員養成の目標を達成するための計画)

基準項目 1-2-⑥

全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

取組観点との関係性	A	B	C	D○	E
-----------	---	---	---	----	---

【現状】

基準項目 1-1-①②③、1-2-④⑤で述べてきた取組については、学科による年度毎の検討・改善を基本としており、それらについてのとりまとめと公表の作業は全学組織である「教職センター」（授業評価についてのみ、FD支援オフィスが担当）が行っている。

各学科・研究科の教職課程の在り方についての改善方策を考えることは、個別に行われる事項であることから、全学組織としての役割はそれらの作業が正しい手順を踏んで行われるように働きかけをし、環境整備を行うこととしている。

【長所・特色】

前項【現状】にある項目については、基準項目に記載した【長所・特色】がある。
これらを学科教員で共有し、適時確認している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学科の教職課程の自己点検評価については、学科会議等で内容を共有し了承を得ながら進めている。学科会議等で学科の課題となっている事項については、その都度協議し改善を図っている。教職課程自己点検については、教職センター運営委員が協議し作成した評価表を学科の教員が閲覧できるようにし、意見を集約する形で進めている。今後は、より学科教員全員が主体的に自己評価に参画できるよう、機会を捉えてきめ細かく学科内に周知するとともに、改善に向けた意見聴取する機会を設定するよう努めていく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教職課程自己点検評価報告書)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：教職課程が履修希望者の登録を行う際の「教職への基本的理解と意欲を有すること」「当該教職課程における教育の目標に理解を示していること」を確認するような履修登録上の工夫。
- B：学生に対する教育効果を考慮するとともに、直接指導に当たる教員の教育負担を考慮しつつ、当該教職課程に即した適切な規模の履修希望学生を受け入れること（基準項目 2-1、取組観点例）
- C：教職課程に学ぶ学生の意欲や適性を把握し、組織的にキャリア支援を行う体制。
- D：学生のニーズに応じ、教職入職に関する各種情報の提供の機会や教職入職卒業生との協力関係の構築。
- E：教員採用試験等への対応（基準項目 2-2、取組観点例）。

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

基準項目 2-1-①

当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E
-----------	----	----	---	---	---

【現状】

アドミッションポリシー(「入学者受入方針」)は、広く公表しているものであり、以下としている。

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

1. 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
2. 教育や保育に関する社会的な諸課題について、自分の持っている知識や情報により論理的に思考し、それを説明したり表現したりできる。
3. 「初等教育」、「幼児教育」、「養護教諭」、「音楽」の4コースから、主体的に所属先を選択・希望するために、専門性の高い職業に就く目的意識を有し、そのためにどのような学びを展開していきたいのか、具体的に考えることができる。
4. 高等学校等で課外活動やボランティアなど、多様な活動経験を有している。

入学者の選考とその決定においては、アドミッションセンター(入学関係業務担当部署)との連携で、入学にかかわる課題やエントリーシート、試験問題を設定するなどし、教職課程教育を行っている学科にふさわしい学生像を評価の基準としている。

【長所・特色】

「子どもの視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身につけ、多様な学習活動をつくりだすことができる教員や、子どもの心身の健康課題の専門的知識をもち、さらに特別な教育支援を必要とする子どもに情熱をもって関わることのできる教員」を養成していることを明確に示した入学者受け入れの体制が確立されていることで、「教職への基本的理解と意欲を有すること」「当該教職課程における教育の目標に理解を示していること」を確認できる入学登録を行うことができている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

来学してからの学校紹介・学科紹介等以前に、教職課程教育が充実している本学のよさを伝える場をさらに発掘していきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(アドミッションポリシー(入学者受入方針))
- 2 大学ホームページ(情報の公表(教職課程)教員養成の目標)

基準項目 2-1-②

「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E
-----------	----	----	---	---	---

【現状】

教職課程を履修するに当たっては、履修カルテを利用した指導を行っている。科目等の確認、履修状況の形成的な自己評価を行っている。また、ポータルサイトから個人の履修状況を各科目の成績を含めて確認することができる。単位充足状況と取得予定教員免許状の関係も明確に示される。

【長所・特色】

本学の特色である2年次までのガイダンスティチャー制度により、ゼミが決定する3年次までの間も、担当教員が各学生の取組状況を常に確認し、指導することができる体制になっている。また、本学ポータルサイトの学生カルテ機能により、3年次以降に担当するゼミ担にもスムーズに引き継ぐことができ、次学期や次年度の履修に向け、計画的に指導することができる。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

教職を担うにふさわしい学生の育成と学生の状況を判断する基準についての論議を年度毎の学生の状況に合わせて変化させていく取組を継続していく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 2-1-③

「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

取組観点との関係性	A	B○	C○	D	E
-----------	---	----	----	---	---

【現状】

本学科は、入学時に初等教育コース、幼児教育コース、養護教諭コース、音楽コースへの在籍希望確認を行っている。入学後のコース変更についても相当の理由があれば積極的に認められる状況がある。現在は人数バランスが適正に保たれている。これは、入学前の履修に関する情報提供が科目内容・取得免許状・資格を含めた詳細な情報となっていることから担保されているものである。

また、本学科学生の教員免許の取得状況及び教員への就職状況からも、一人一人の学生に対し十分な教職指導を行える適切な規模の履修学生の受け入れとなっていると考える。

【長所・特色】

入学後のコース変更、GT（ガイダンスティーチャー）・ゼミナール担任制度等、学生に寄り添った指導と態勢が整っていることが安心感のある安定した履修状況を生み出している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

安定したキャリア支援活動につながる学修目的を明確にできる受け入れ態勢を維持する。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 卒業生の教員免許の取得の状況)
- 2 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 卒業生の卒業生の教員への就職の状況)

基準項目 2-1-④

「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導が行われている。

取組観点との関係性	A	B	C○	D○	E
-----------	---	---	----	----	---

【現状】

「履修カルテ」の活用にあたっては、相当以上の時間を設定し、記入と自己の形成的な評価をよきの伸長や学修成果としてとらえるように指導している。これにより、教職実践演習での取組内容が現代の喫緊の課題を扱うものとなり、大きな成果を上げている。

【長所・特色】

履修カルテを担当及び教職実践演習担当教員が確認し活用することで、学生個々の特性や能力、資質が正確に掌握できる。キャリア支援に直結するものとして大きな役割を担っている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

履修カルテの持つ意味と学生自身が客観的に自分を見つめるものとして機能していることをよく理解できるような指導の機会を維持確保すること。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 教員養成の目標を達成するための計画)

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

基準項目 2-2-①					
学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。					
取組観点との関係性	A	B	C	D○	E○
<p>【現状】</p> <p>個人面談の複数回実施、履修カルテの内容確認等から、意欲や適性を判断し、指導につなげている。加えて、教育実習先を選定する時期には、免許取得・教員採用検査・就職の方向を詳細に聞き取ることを行っている。</p> <p>【長所・特色】</p> <p>「教育実習事前指導」では本学作成の「教育実習の手引き」を基に、教育実習の意義や目的を理解し、実習で学ぶべきことを明確にしている。また、「教育実習時指導」では、学生一人一人と面談をし、教育実習を通して見えてきた成果と課題をより明確にし、教育現場に即した実践的指導力を身につけるべく、今後の教職課程履修に向けた目標と見通しについて学生の自覚を深めている。</p> <p>【課題(質的向上の視点)と改善策】</p> <p>教育実習（基本的には3年次前期）・保育実習（施設実習含む、3年次2月後半から後学期）・養護教諭コースは看護学臨床実習（2年次8月～9月）養護実習（3年次4月～5月）音楽コース（4年次前期から後期）が続くことから、学生によっては教員採用検査（1次検査6月中旬）を除く就職活動に関する日程がタイトとなる場合がある。学生の状況を詳細に把握し、指導を行う体制を維持していきたい。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>1 大学ホームページ(情報の公表（教職課程）教員養成の目標を達成するための計画)</p> <p>2 教育実習の手引き</p>					

基準項目 2-2-②

学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

取組観点との関係性	A	B	C○	D○	E○
-----------	---	---	----	----	----

【現状】

各種セミナーの時間を活用し、就職に関するガイダンス・就職先の選定をする場合の視点についての考え方・具体的な情報の集め方・就職活動の具体的な行い方等について、詳細に指導している。教職センター及びキャリア支援担当部署(キャリア支援センター)との情報共有はもちろんのこと、担任との面談も複数回実施していることで資質や能力、適性を基にしたキャリア支援が組織的に適正に行われている。

【長所・特色】

教員採用検査説明会(全学での実施)、私立幼稚園・保育所の各種合同説明会(情報提供)に係る情報を詳細かつ適切な時期に提示している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学生の特性によるが、キャリア支援活動の適正さに拠らず就職活動が滞る場合がある。保証人及び保護者等との連携も図っていく必要があると考えられる。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(学生生活(教職センター))
- 2 大学ホームページ(就職・進路(キャリア支援センター))

基準項目 2-2-③

教職に就くための各種情報を適切に提供している。

取組観点との関係性	A	B	C○	D○	E○
-----------	---	---	----	----	----

【現状】

前項の【現状】に示した方法を含め、大学ホームページ等の積極的な活用、教職センター及びキャリア支援センター職員との積極的なかかわりを促している。

【長所・特色】

就職活動の充実のためには、多方面からの見方や考え方、感じ方があることを、活動に活かしていくことが有効であることから、担任の面談が複数に及んでいることキャリア支援センター職員との相談が自由に行えることは学生にとって大変に有難い状況であると言える。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

面談や相談、面接練習、といった具体的かつ効果的な支援には十分な時間が保証されるべきであることから、積極性をもった取組を進めていくことが求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(学生生活 (教職センター))
- 2 大学ホームページ(就職・進路 (キャリア支援センター))

基準項目 2-2-④

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

取組観点との関係性	A	B	C	D○	E○
-----------	---	---	---	----	----

【現状】

免許状取得に関しては、入学後のコース変更が認められること、教員の魅力を伝える科目の指導内容の工夫などを行っている。教員自身が教職課程教育を担っている強い自覚と自負を有していることが現状の太い柱である。

【長所・特色】

強い使命感を持った教員集団とともに学修を深める学生には当然の帰結として教育職に対する強い期待感と使命感が育つ。このことは、教員を目指すことに直結し、高い就職率に繋がっている。

本学科は、小学校教諭一種・幼稚園教諭一種・特別支援学校教諭一種・中学校教諭音楽一種・高校教諭音楽一種、養護教諭一種の免許資格を並行して4年間で取得できる履修環境が整っていることもあり、教育界からの期待も大きい。このことも高い採用率に繋がっている。令和6年度公立学校教員採用検査における現役学生の合格率は、初等教育コースで83%、養護教諭コースでは66%という実績をあげた。さらに、令和5年度の幼児教育コースの就職率は100%であった。

また、特別支援学校教員免許状の取得割合も高く、全ての校種で必要な特別支援教育の充実に資する専門性の向上に向けた取組を行っている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

全国的な教員不足が社会の課題となっている中、資質・能力の高い教員を養成し、教員採用検査の合格率の更なる向上に資するため、教員採用検査に係る指導の維持発展が不可欠である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 卒業生の教員免許の取得の状況)
- 2 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 卒業生の卒業生の教員への就職の状況)

基準項目 2-2-⑤

キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

取組観点との関係性

A

B

C

D○

E○

【現状】

授業において、現職の教員などを講師として招聘し、教育現場の今日的な教育課題や先進的な取り組み、考え方などを直接感じることができる貴重な機会となっている。

【長所・特色】

1年次の「基礎教育セミナー」において、教職に就いている卒業生を招聘し、教育現場での具体的な教員としての取り組みや大学での学びとのつながりを知る機会となっている。今後の大学での学びに対して、見通しを考える場となっている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

様々な校種、様々な担当の方を講師に招き、率直な言葉を交わす機会としていきたい。教育実習や就職試験、教員採用検査の時期を見て開催としたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス (教育学科)

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：各科目の基本を押さえつつ、学校や社会の新たな課題を踏まえた内容が適切に加えられ、「教職課程コアカリキュラム」への対応、「教科及び教職に関する科目」の各科目領域間の系統性の確保といった適切な教職課程カリキュラムとなっているか。
- B：学習指導要領の基本方針である「社会に開かれた教育課程」実現に向けて「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を意識した指導方法の転換が進められている。教科等を横断する教育課程全体の教育効果として、問題発見・課題解決能力の涵養を図ることができるよう児童生徒の能動的参加を引き出す指導となっているか。
- C：「教職実践演習」によって、教職課程の履修、教職課程外での多様な活動を通じて学生が修得した資質能力が、教職に必要な実践的な指導を可能とする資質能力として形成されたかを各大学の教職課程の目的・目標に照らして最終的に確認する。
- D：「履修カルテ」の活用によって、「教職実践演習」には各学生の学修上の仕上がり度の確認の上に立って、教職として基本的な資質能力のうち、足りない部分を補完する指導上の役割を果たす。
- E：実践的な指導力育成への配慮が求められている学校インターンシップ、学校ボランティア、教育上のフィールドの機会など、「体験」の場を積極的に提供する工夫を凝らす。
- F：「教育実習」は、大学の教職課程の担当者と実習校の関係者とが連携して実践的教育を行うための貴重な機会でもある。教育実習に臨む上での必要な履修要件のもと、「実習生」としての心構えの指導も求められる。この点、大学の教職課程担当教員が実践的指導力育成を行っていくなかで、教育委員会との交流を深め、連携を密にしていく。

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3-1-①

教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】

建学の精神「常に変化する社会に向かって真摯にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、より高い専門性と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」という理念は完全に具現化できている。これは、教職課程教育を行う学科としての目指す教員像とも完全一致している。

【長所・特色】

幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・高等学校教諭（音楽）・特別支援学校教諭（知・肢・病）・養護教諭・教育関係施設・各種施設等に就職していく学生にとって、自立できる社会人の育成という理念に沿った教育活動が行われている本学科の方向性は大変に有利なものである。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

教職課程教育にかかわる科目に限らず、人間的な高まりを目指す教育活動が行われていることを学生と確かに共有する。また、これらの科目が無理なく履修できるように配置されていることも学生とともに確認していきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス（教育学科）

基準項目 3-1-②

学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】

この基準項目については、完全に達成している。

【長所・特色】

文部科学省が定めている「教育職員免許法施行規則」に基づく科目設定・授業計画となっている。当然のことながら、シラバスにも正しく反映されており、学科内で確かに共有している。コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムであることは必然であり、その履修に当たっては、学生の学びの質的な高まりや順序性を十分に確保したものとなっている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

科目等の改変が行われる際の系統性の確保を確実にしていく。特別支援学校教員免許取得に係る科目については、令和6年度から全ての科目でコアカリキュラムを取り入れる。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 学生便覧 (教育学科)
- 2 講義要領シラバス (教育学科)

基準項目 3-1-③

教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】

この基準項目については、完全に達成している。今日的な教育課題や学校を取り巻く環境の変化については、各科目内で近隣校との連携を図ったり教育委員会との情報交換を行ったりなどしている。また、教育現場に広く人材を求め、今日的な課題についての専門的な学びの質的な向上と内容の補完を行っている。

【長所・特色】

各教育委員会の教員育成方針は、教育実習事前指導をはじめとした各種教職関係科目の中で取り上げており、教育基本計画が確実に実施され、PDCA サイクルで改善され続けている学びを行っている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

本学科での学びは、4年間であり、基礎的な内容の上に、より実践的な内容を扱うことも多い。その中で、教育現場に出たときに即応できる必要十分な知識と技能を身に付けることができるように、教員間の情報交換を活性化していくことが必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス (教育学科)

基準項目 3-1-④

今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E	F
-----------	----	----	---	---	---	---

【現状】

学部講師を積極的に活用するなどのことも加えて実施している。また、大学として整備を行った「GIGAスクール」に係る機器を積極的に活用すべく、科目内容も常に改善している。

【長所・特色】

環境の整備が急速に進み、全道での ICT 教育の在り方を多くの部分で再現できている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

扱う科目の増加や科目内での使用頻度の向上を狙い、教員向けの研修会を実施したい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス (教育学科)

基準項目 3-1-⑤

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】

各科目の中において、より実践的な学びが確保されるように、「模擬授業」「模擬指導」といった内容を多く設定している。これらは、学生各個人の力量を高めるだけでなく、グループワークなどの積極的な活用によって、対話的な学びの在り方についても議論を通して深めている。

【長所・特色】

アクティブ・ラーニングの意味を単に情報機器の多用によるものとしてとらえることのないように、「従来からある子ども同士の学び合いこそが最重要であり、実習等においても、このような指導の意識があるかという点が最も問われる教員の資質である」ことを学びの柱としている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

履修人数や教室の確保の問題、コロナ禍での対応といったことも含め、今日的な学びの在り方を体現してみる時間を一学生により多く割り当てられるように活動の在り方を工夫していくことが求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス（教育学科）

基準項目 3-1-⑥

教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。

取組観点との関係性	A○	B○	C○	D	E○	F○
-----------	----	----	----	---	----	----

【現状】

本学科のシラバスは、・授業のねらい・到達目標・授業計画・準備学習の内容（事前・事後の学習）・使用するテキスト（教科書）や参考書・成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）・質問への対応（連絡先など）・その他（履修に当たっての特に注意すべき事項）、加えて「学習形態（A講義、B演習、・・・Nロールプレイ）」、といった内容を、教育課程表・共通科目・専門科目といった分類で示している。

【長所・特色】

評価方法については、評価の配分を割合で示すなどし、学生の納得を得ている。また、資格へのつながり、質問への対応など、教職課程対応のシラバスとしてきめ細かいものとなっている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学生の事前学習、事後学習に役立つものとなるよう、さらに詳細な表示を効率的に行っていくたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス（教育学科）

基準項目 3-1-⑦

教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E	F○
-----------	---	---	---	---	---	----

【現状】

教育実習を履修するにあたっては、教職課程履修規程第 11 条に「教育実習の履修は、本人の性行不良、学力劣等その他の事由により教員として適格性を欠くと認められる場合は、これを取り消し又は停止することができるものとする。」との定めをし、教育職に就くものとしての資質を問うことも行っている。

【長所・特色】

本学独自の「教育実習の手引き」を使用し、教育実習の目的や意義、心構えなどを学び、本学学生としての強い自覚と誇りをもった履修となることが、将来的に求められる教員としての使命感につながるものである。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

教育職を目指すものとしての姿勢をすべての科目を通して育むのだという教員間の共通理解をさらに深め、学生への総合的な指導としたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1 学生便覧 (教育学科)
- 2 教育実習の手引き

基準項目 3-1-⑧

「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

取組観点との関係性	A	B○	C○	D○	E	F
-----------	---	----	----	----	---	---

【現状】

「履修カルテ」を学期の節目に記入することに拠り、自己理解と自己改善に役立てるものとしている。また、毎回の学科会議で行う「学生状況の詳細な交流・共通理解」の際にも「履修カルテ」を役立てている。

教職実践演習においては、各担当者が、学生の設定する研究課題と履修カルテからも見える就職の方向性の整合から学生の状況や資質、能力を推し量り、4年間の学びの集大成となるよう考慮しながら指導している。

【長所・特色】

自己理解と自己改善の視点で活用することは、自己肯定感の向上につながるものであり、最終的には就職に向けての具体的な活用がより積極的になったりより実際に則したものとなったりしていくことに繋がる。

教職実践演習では、学生の教職に対する理解度が顕著に表れることから、履修カルテでの自己評価は大きな効果を発揮する。即ち、どの程度の研究課題を設定できるのか、どの程度の成果を上げることが期待できるのかが明確にわかるのである。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学生の「教職実践演習」への真摯で熱心な取組に、さらに多くの時間をかけて関わっていくことができるように取組の工夫を重ねていく。

履修カルテの持つ目的についての学生の理解が深まるように、教員の活用頻度を上げていくことを行い、特に、面談時等には活用を必須とするなどのことを教員の共通の理解としていきたい。

卒業と就業までの限られた期間にできる指導としなければならない指導を明確にするために、積極的な活用を担任及び関係教員に促していくことが求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 講義要領シラバス (教育学科)

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

基準項目 3-2-①

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

取組観点との関係性	A	B○	C○	D	E	F○
-----------	---	----	----	---	---	----

【現状】

各教科指導法で行われている履修内容がより実践的なものとしての位置づけとなっている。また、幼児教育コースでは、5領域に関わる指導法（1～2年次科目）、模擬授業や専門領域に関する研究（2～4年次科目）を設定している。初等教育コースでは、各教科概論（1年次科目）、各教科指導法（2.3年次科目）を設定し、小学校教諭を目指す学生への学びを充実させている。各教科指導法では、模擬授業の機会を積極的に設定している。

特別支援教育においては、学校現場における授業参観や授業参加など、科目内外を通し積極的に取り組んである。

養護教諭コースでは、1年次に「養護実践学Ⅰ」「看護学概論」等で養護実践のための専門知識や指導技術の基礎的事項を理解できるようにしている。また、「看護技術演習（救急処置を含む）Ⅱ」などで看護学実習としての病院実習の準備を進め、2年次の「看護学臨床実習」の意義と目標、方法等を理解し、実習することで学びを深化させている。さらに3年次の「養護実習」において、専門職としての豊かな資質と力量を高め、「養護活動実習Ⅰ」等での学習に発展させ、実践的指導力を育成できるよう設定している。

【長所・特色】

現場での授業観察などの活動の設定も重要な実践的な指導の機会となっている。

原則として、教室で行われている授業を子どもが特定できる状態で録画することはできない。ただ、限定的な授業とはなるが、すべての許可があり、視聴できるものも各科目担当が収集しており、教員間で共用することも可能となっている。

教育実習においては、3-4週間という限られた期間の中ではあるが、12時間以上の授業を担当させていただき依頼を教育実習校に掛けており、もれなく実施できている。

【課題（質的向上の視点）と改善策】

指導案の作成と模擬授業は一体のものであり、指導案の作成のみをもって実践的な指導が行われたことにはならない。

時間的な制約や限定的な場面での試しといったことではあるが、模擬的な活動をさらに充実させていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 3-2-②

様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E○	F
-----------	---	---	---	---	----	---

【現状】

札幌市内・江別市内での学生ボランティア活動に多くの学生を送り出している。また、介護等体験については、免許状取得に係る必要条件である場合、実施している。

【長所・特色】

学生ボランティアについては、広く募集がかかることから、積極的に参加させていただいている。札幌市を含め、本学近隣に多くの学校を抱える地の利を生かした活動として位置づいている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

学生ボランティアは、全ての学生が行っていることではないが、教員採用検査時の面接で実感を込めて思いを伝えられるメリットがあることを広く伝えたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1. 講義要領シラバス（教育学科）

基準項目 3-2-③

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E○	F○
-----------	---	---	---	---	----	----

【現状】

学生ボランティアへの参加、観察実習、といったことがメインの活動として位置づけられている。教育実習は、段階的に取組が深まっていくものであることから、初期段階で指導される「観察実習」の機会を積極的に活用するように指導している。

【長所・特色】

GIGAスクール構想が急速に広がり、そのことに対する関心が高まっていることに加え、少数指導と学びの質の向上の関係についても社会の関心は高い。観察する機会が実習の中で確保されていくように実習校に依頼している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

教育の最新情報については、各科目の中で常に触れられていることである。学生には、教育実習に行った後に感じたであろう不足している学びを積極的に追い求めるように支援したい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(学生生活 (地域連携センター) 資格取得・ボランティア)

基準項目 3-2-④

大学ないし教職センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D	E	F
-----------	----	---	---	---	---	---

【現状】

本学としての取組となるが、「北海道教育委員会」「札幌市教育委員会」による教員採用検査説明会が毎年度行なわれている。更に、各教育委員会の教職員担当者が本学を訪れ、本学の教職課程教育の充実さへの謝辞を述べつつ、教員採用へのさらに積極的なかかわりをしてほしいとの依頼をされていく。その際は、教員採用の現状と退職者数の関わり、期待する教師像についての情報提供をいただいている。

【長所・特色】

毎年度、優れた学生を輩出しているとの認識で本学の教職課程教育をとらえてくださっていることが、学生への指導の方針が正しいものであるとの認識の裏付けとなり、指導に対する更なる工夫への弾みとなっている。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

教育委員会教職員担当者との情報交換の機会をさらに充実させていく。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 大学ホームページ(情報の公表 (教職課程) 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組)

基準項目 3-2-⑤

教職センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D	E	F○
-----------	----	---	---	---	---	----

【現状】

教育実習実施校・園は、出身校・園に限らず、大変に協力的である。実習の時期が幼稚園と小学校は基本9～10月、中学校と高等学校に実習校の希望にあわせ5～9月をメインに、養護教諭実習は4月～5月に、特別支援学校は12月頃までに随時という形で対応してくださっている。実習においては、3-4週間という期間にもかかわらず、実習生に対し授業・保育実践の時間を十分に確保してくださっている。

また、事後には札幌市及び江別市の校長会と教育実習報告会を行なっている。本学の実習生については、概ね、高評価をいただいている。

【長所・特色】

本学出身の教員の数が累積でかなりのものとなり、北海道内・札幌市内における認知度が大変に高い。先輩方が築いた信頼感が実習の安定的な受け入れに大きく寄与している。

【課題(質的向上の視点)と改善策】

丁寧な訪問指導の継続、こまめな学生への指導といったことが教育実習の充実につながっていることもある。

教育実習校・園の教育実習担当者との具体的な内容を含む実習状況についての情報のやり取りを今後も維持継続していくことが大切である。

〈根拠となる資料・データ等〉

1 教育実習報告書

項目記載内容の出典や根拠

【教育文化学部 教育学科】

出典や根拠については、各項目の部分に記載してあります。

〈大学ホームページ〉

- ・ 本学について

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/>

- ・ 教育課程編成方針

<https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/ducation/index.html>

- ・ ADMISSION POLICY 入学者受け入れ方針

<https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/ducation/index.html>

- ・ 情報の公表（教職課程）

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopub-teach.html>

- ・ 北翔大学 教職課程履修規程

https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/gradschool/files/2022_university_07.pdf

- ・ 教育学科シラバス

<https://portal3.hokusho-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do>

- ・ 教育学科学生便覧

<https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/university/>